

【お申し込み方法】

受講申し込み手順

関西学院東京丸の内キャンパスに電話、
又はFAXでお申し込みください。

TEL03-5222-5678

受付時間…午前10:00～午後6:00
(土日祝を除く)

FAX03-5222-7033

24時間受付
※申込用紙をご利用ください

受講申し込み上の注意

- ・受講のお申し込み受付は先着順とさせていただきます。定員に達して受講いただけない場合もございます。その際はご了承ください。但し、その場合もその旨通知いたします。
- ・講座の応募状況によって、受講定員を変更させていただく場合があります。募集人数に満たない場合は、不講となる場合があります。あらかじめご了承ください。

ご請求書(振込み依頼書)の発送

- ・お申込みから1週間ほどで、関西学院東京丸の内キャンパスからお振込みいただく金額及び、必要事項を記載した『ご請求書兼領収書』をご自宅に郵送いたします。
- ・『ご請求書兼領収書』がお手元に届き次第、速やかに『ご請求書兼領収書』をお近くの銀行までご持参の上、お支払いください。
- ・ATMでの振り込みは出来ませんのでご注意ください。
- ・振り込み手数料は自己負担となりますのでご了承の程お願いいたします。
- ・関西学院東京丸の内キャンパスでは受講料のお支払いは出来ません。

「受講ご案内」はがきの発送

- ・受講のお振込を確認した後、関西学院東京丸の内キャンパスより『受講案内はがき』を送付いたします。第一回目の講座開講日に『受講案内はがき』と引き換えに受講票をお渡しいたします。

キャンセルについて

- ・キャンセルは各コース共、開講日以前に電話にてご連絡ください。講座開始日以降のキャンセルによる返金は一切いたしません。
- ・開講日以前のキャンセルの場合、キャンセル料を差し引いた金額をご返金いたします。

【キャンセル料】

- ・開講開始14日前まで …………… 無料
- ・13日～7日まで …………… 1,000円
- ・6日～前日まで …………… 2,000円
- ・当日以降 …………… 全額

ACCESS



- JR東京駅 新幹線専用改札口(日本橋口)より徒歩1分
- JR東京駅 在来線八重洲北口改札口より徒歩2分
- 東京メトロ丸の内線 東京駅 丸の内オアソ B7出入口より直結

※サピアタワー入館方法：
サピアタワー3Fのオフィスロビー受付で「来館受付票」に記入し、「写真付きの身分証明書」もしくは「名刺2枚」を提示して、ゲストカードを受け取ってから、入館ゲートを通ってエレベーターで10Fに上がってください。



関西学院 東京丸の内キャンパス

〒100-0005
東京都千代田区
丸の内1-7-12
サピアタワー 10階

TEL.03-5222-5678
FAX.03-5222-7033

- 開室時間
原則として
午前10時～午後6時
(土・日・祝日と学院の
定める休日は原則と
して閉室)



http://www.kwansei.ac.jp/t_marunouchi/

関学 丸の内講座 webで検索



かん せい がく いん
関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

2015年度後期

丸の内講座

エグゼクティブコース

「2015年度政策総点検」

公開講座
第2回トライアングル・トーク
「戦後70年 ～日本の過去・現在・未来～」

ビジネス&アカウンティングコース
「収益を好転させるビジネス・モデルの創り方」
～売れる仕組みを構築するイノベーション発想法

マネジメントコース
「MBAマネジメント基礎講座」
「財務3表の読み方・使い方」

ナレッジコース
「クリスマスと日本」

特別企画 教養・科学塾
「映像が語る科学の驚異と警告」
～話題作・受賞作を見る～

第6回 グローバルカフェ
シリーズ「国際情勢を読む」
～アメリカの今を考える～

2015



関西学院大学 丸の内講座 ごあいさつ

関西学院大学
学長 村田 治



関西学院大学の「丸の内講座」は2004年の秋に初めて開講され、今年で12年目になります。本学が「丸の内講座」を開講した背景には、東京での情報発信もありますが、基本的には、社会人へのリカレントを含む学習の場を提供することにあります。大学の役割は、研究と教育であることは言うまでもないことですが、大学の資源を活かして、社会に対して学習の場を提供することも大きな役割であると考えております。

開設当初はエグゼクティブコースのみでしたが、現在は、エグゼクティブコース、ビジネス&アカウンティングコース、マネジメントコース、ナレッジコースの4つのコースから構成されています。

基本的なコンセプトとしましては、エグゼクティブコースは、社会の第一線で活躍されている企業や団体のトップ層を対象とした、マクロ的な視点でわが国の様々な問題を考えるためのコースとなっています。本年度の秋学期は、「2015年度政策総点検」をテーマとした、グローバルな視点からの企画となっています。ビジネス&アカウンティングコース、マネジメントコースは、比較的若い社会人の方を対象に、ビジネスや経営の具体的な問題についてのスキルや手法を身につけて頂くことを狙っています。特に、マネジメントコースは、25名の定員で授業後の交流も盛んであり、いわば、異業種間交流の場としての役割も果たしています。ナレッジコースは、リタイアされた方も含めあらゆる年齢層を対象とした教養講座となっております。

皆様方が、それぞれのニーズにあった講座を受講され、これから人生が豊かになることを心から願っております。

CONTENTS

ごあいさつ	2
エグゼクティブコース	3
公開講座第2回トライアングル・トーク	6
ビジネス&アカウンティングコース	7
マネジメントコース	8
ナレッジコース	11
特別企画 教養・科学塾	12
特別企画 グローバルカフェ	14
受講申込書	15
お申込み方法・地図	16

エグゼクティブコース

【テーマ】「2015年度政策総点検」

全6回 時間…18:30~20:30
 受講料…30,000円「軽食付」(同窓生割引24,000円)
 定員…40名
 会場…東京丸の内キャンパス

「2015年度政策総点検」

戦後70年、日本を取り巻く国際環境は大きく変化しました。中国の著しい台頭の一方で、米国の影響力は相対的に低下しつつあると言われています。

こうしたなかで日本の安全保障政策はどうあるべきか？ 集団的自衛権容認の是非、現行憲法との関連などさまざまな論点が見られます。

経済的な観点からは、環太平洋経済連携協定(TPP)に加盟することによって日本経済の活路を見出だそうとする考えがある一方で、農業など日本の食料政策に重大な影響を及ぼすとして慎重な対応を求める声も少なくありません。

また、地球温暖化など気候変動の問題が世界の大きな関心事となっていますが、年末パリで開催される国際会議COP21において国際社会はどのような方向を打ち出すのでしょうか？

日本国内では、人口減少、少子高齢化が進むなかで、年金・医療・介護・子育てなど社会保障政策のあり方が問われています。また年々増大する社会保障関係の財源をどのようなかたちで手当てするのか？ さらに日本の経済社会の構造変化を踏まえて、所得税・法人税・消費税などの税制の仕組みを見直す必要はないのでしょうか？

内外のさまざまな課題に直面する日本。これに対して、今、霞ヶ関は何を考え、どう動こうとしているのでしょうか？ 今回の丸の内講座は、「2015年度政策総点検」というテーマで、戦後70年を迎えた日本の現在と未来について、皆さんとともに考えたいと思います。



丸の内講座 監修
 関西学院大学教授
 NEWS ZERO メンキャスター
 村尾 信尚

村尾信尚プロフィール

1955年	岐阜県高山市生まれ	2001年1月	財務省理財局計画官(内閣・財務、厚生労働・文部科学、経済産業、国土交通係担当)
1974年3月	岐阜県立斐太高校卒	2001年7月	財務省理財局国債課長
1977年10月	国家公務員上級試験(経済)合格	2002年7月	環境省総合環境政策局総務課長
1978年3月	一橋大学経済学部卒	2002年12月	環境省退官
1978年4月	大蔵省入省 関税局企画課	2003年10月	関西学院大学教授
1980年9月	大臣官房調査企画課	2006年10月	NEWS ZERO(日本テレビ系列) メンキャスター
1981年7月	大臣官房付(外務研修)		
1982年5月	外務省在ニューヨーク日本国総領事館副領事		
1985年7月	大蔵省理財局国庫課課長補佐		
1987年7月	主計局総務課課長補佐		
1988年6月	主計局主計官補佐(公共事業第二係主査)		
1990年7月	理財局資金第一課課長補佐		
1993年7月	大臣官房企画官兼理財局資金第一課		
1995年7月	三重県総務部長(1998年4月から総務局長)		
1998年7月	大蔵省主計局主計官(外務、通産、経済協力係担当)		
2000年7月	主計局主計官(外務、経済協力、経済産業係担当)		
2000年8月	理財局資金第二課長		

著書

- 「無名戦士たちの行政改革~WHY NOT の風~」(村尾信尚・監修)関西学院大学出版会(2007年)
- 「日本を変えるプランB」(村尾信尚・責任編集)関西学院大学出版会(2005年)
- 「「行政」を変える!」講談社現代新書(2004年)
- 「役所は変わる。もしあなたが望むなら」淡交社(2001年)
- 「動きだした地方自治体改革」(村尾信尚、森脇俊雅共著)関西学院大学出版会(1999年)

エグゼクティブコース

【テーマ】「2015年度政策総点検」

10/15 (木)

鈴木 英夫

Suzuki Hideo

前 経済産業省通商政策局長



企業の経済活動の国際化、貿易投資の自由化、中国等新興国の台頭、欧米のリーダーシップの弱体化、WTO交渉の停滞、地政学的リスク等により、我が国の対外経済政策と企業の国際展開戦略は大きな変化を迫られています。TPPもこうした変化を反映し、投資、競争、国有企業、知財保護、環境、労働等のこれまで通商政策では議論されなかった内容を包含しています。TPPの内容と我が国企業の競争力が抱える課題をあわせて分析し、今後の対外経済政策の展開の方向性について議論をしたいと考えています。

1981年4月 通産省入省(貿易局総務課)
1996年5月 連合王国貿易産業省上級産業アドバイザー
1998年6月 中小企業庁計画部振興課長
1999年3月 茨城県商工労働部長
2001年4月 経済産業省通商政策局通商機構部参事官
2004年6月 経済産業省経済産業政策局企業行動課長
2007年7月 経済産業省経済産業政策局審議官(産業資金担当)
2008年9月 経済産業省通商政策局通商機構部長
2010年8月 防衛省大臣官房審議官
2012年9月 経済産業省産業技術環境局長
2013年6月 経済産業省通商政策局長兼内閣審議官(TPP政府対策本部)
2015年7月 経済産業省退職

著書 『元気で豊かな日本をつくる税制改革』(財団法人経済産業調査会)
『21世紀の産業と金融』(共著、2008年9月、経済産業調査会)
論文 『WTOセーフガード協定に関する行政面からの考察』
(日本国際経済法学会年報第12号、2003年10月)

1/21 (木)

黒江 哲郎

Kuroe Tetsuro

防衛省防衛政策局長

平和安全法制について

我が国周辺では、北朝鮮が極めて閉鎖的な独裁体制の下で核兵器やミサイルの開発・配備を進め、中国は急拡大した軍事力を背景として周辺諸国に圧力をかけ続けています。また、我が国がエネルギーの多くを頼る中東地域の情勢は、イスラム国の伸長などにより流動的です。こうした厳しい国際環境の下で我が国の平和と安全を確保していくには、外交を始め様々な分野で多様な施策を積み重ねていかなければなりません。「戦争法案」との批判も受けた平和安全法制ですが、その整備はこうした努力の一部を成すものです。改めて、その意義や必要性を考えて頂ければ幸いです。



1958年 山形県生まれ
1981年 東京大学法学部卒業、防衛庁(当時)入庁
1998年 英王立国防大学留学
2001年 内閣官房内閣参事官
2012年 防衛省運用企画局長
2013年 防衛省大臣官房長
2014年 防衛省防衛政策局長

11/19 (木)

柄澤 彰

Karasawa Akira

農林水産省農産部長



食料は、あらゆる人にとって、毎日必ず数回消費しなければ生存が危うくなるという他にあまり類例がない財であると言えます。そのような性格からか、食料について何か意見があるかと聞けば、100人いれば100通りの答えが返ってきます。しかし、食料やそれを生産している農業の実態は、必ずしも正確に理解されていないのではないのでしょうか。TPP交渉や農協改革などの報道によっても、食料や農業のごく限られた一面が断片的にわかるだけで、全体像はなかなかよくわからないという方が多いのではないかと思います。長年農政に携わってきた立場から、食料の中で日本人に特になじみ深いコメを中心に、世界を視野に入れた食料や農業の現状と将来について、皆様とともに考えてみたいと思います。

1983年4月 東京大学法学部卒業、農林水産省入省
1993年5月 欧州共同体日本政府代表部(在ブラッセル)一等書記官
1996年11月 行政改革会議(省庁再編)事務局
1999年5月 経済局国際貿易機関室長
2002年1月 農林水産大臣補佐官
2003年1月 総合食料局品質課長
2003年7月 消費・安全局表示・規格課長
2004年7月 経営局経営政策課長
2007年5月 大臣官房予算課長
2010年4月 水産庁漁政部長
2014年7月 生産局農産部長

2/18 (木)

大谷 泰夫

Otani Yasuo

内閣官房参与
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事

人間の一生を考えると、医療、年金、介護、子育てなどの社会保障政策は生活の安心と安定の基盤を構成していますが、普段はあまり意識しないで過ごしていることも多いと思います。しかし、将来に向けてこの制度、政策が盤石かという点、必ずしもそうではありません。財政的にも社会的にも、国民一人一人がこれを賢く利用するだけでなく、この健全な持続のために連帯して支えていく知識と行動が大切です。社会保障の現状と未来を共に考える機会にしたいと思います。



1953年5月21日生
1976年 東京大学法学部卒業、厚生省入省
1979年3月 OECD 派遣
1996年7月 厚生省年金局年金課長
2006年9月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長
2008年7月 厚生労働省大臣官房長
2010年7月 厚生労働省医政局長
2012年9月 厚生労働省審議官
2014年5月 内閣官房参与
2015年4月 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構理事

12/17 (木)

星野 次彦

Hoshino Tsuguhiko

国税庁次長



本年6月の「骨太方針」に盛り込まれた、「2020年に向けた財政健全化計画」の中に、所得税の改革を中心課題とした歳入構造改革が位置付けられています。巨額の財政赤字という避けては通れない構造問題を抱えつつ、四半世紀にわたる日本の経済社会の大きな構造変化を展望し、これからの税制をどう構築するか、最新の議論を見ていきたいと思つています。消費税の引上げと成長志向の法人税改革を進める中で、国のかたちに関わる所得税の改革がなぜ組上ら上ってきているか、マクロ・ミクロ双方の視点から皆さんとともに考えていきたいと思つています。

1983年 東京大学法学部卒業 大蔵省入省
1988年 飯田税務署長
2000年 在イギリス日本国大使館参事官
2003年 主計局調査課長
2003年~2006年 財務大臣秘書官
2006年 主計局調査課長
2007年 主税局税制第一課長
2009年 大臣官房文書課長
2011年 大臣官房審議官(主税局担当)
2015年 国税庁次長

著書 『図説日本の税制』(平成19年度版)

3/17 (木)

梶原 成元

Kajihara Shigemoto

環境省地球環境局長

地球温暖化問題は、現在人類が直面している最も大きな課題の一つです。連日、新聞やテレビなどで世界各地で起こっている異常気象が報道され、一人一人の方々にとっても、身近な問題として、その異常を感じておられる方も多いと思います。世界の科学者は、二酸化炭素などの温室効果ガスを、2050年には現在の40~70%削減し、2100年には全く排出しない社会を実現させることが必要であるとしています。これらのガスは、ほとんど全ての人の活動から排出されるものです。つまり、生活や事業活動など、社会を根本から変革させていくことが求められています。人類が共通してこの問題に取り組むため、2015年12月にパリで開催される締約国会議(COP21)に向けて2020年以降の取組の国際枠組みの議論が進められています。地球温暖化の問題について、皆様と一緒に考えていきたいと考えております。



1955年 富山県生まれ
1979年 東京大学工学部都市工学科卒業 環境庁(現環境省)入庁
1988年 国際連合アジア太平洋経済社会委員会派遣
2003年 環境省総合環境政策局環境影響評価課長
2005年 環境省地球環境局地球温暖化対策課長
2006年 環境省地球環境局総務課長
2008年 環境省総合環境政策局総務課長
2009年 環境省大臣官房会計課長
2010年 環境省大臣官房審議官(地球環境局担当)
2012年 環境省廃棄物・リサイクル対策部長
2014年~ 環境省地球環境局長

公開講座

第2回トライアングル・トーク

「戦後70年～日本の過去・現在・未来～」

戦後の日本は、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を基本原理とする日本国憲法のもとで、平和で豊かな社会を築き上げてきました。

一方で、この70年の間に内外の諸情勢は大きく変わりました。

成長社会から成熟社会へと移行するなか、人口減少や巨額の財政赤字といった問題を抱え、日本は持続可能な経済社会を構築できるのでしょうか？

中国が台頭する一方で、米国の影響力が低下するなか、安倍政権は集団的自衛権の限定的な行使を容認するなどの安全保障政策を打ち出しました。この防衛政策の転換が、日本の平和と安全にどのような影響を及ぼすのでしょうか？

そして、戦後70年の「安倍談話」。時代の転換期とも言える今、私たちはこの談話の持つ意味合いをどう捉えたら良いのでしょうか？

第2回トライアングル・トークでは、私たちの来た道を振り返り、私たちの行く道を考えたいと思います。

11/13 (金)

時間…13:30～15:30
受講料…無料 **要申込み**
定員…200名
会場…ステーションコンファレンス東京 5階
 (東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー内)
お問い合わせ…03-5222-5678(平日10:00～18:00)
 関西学院大学 丸の内キャンパス

お申し込みはこちらのQRコードで!



または
 関西学院大学丸の内講座
 webで検索

講師

東京大学文学部教授
(日本近代史)

加藤 陽子

Kato Yoko

1960年埼玉生まれ。1989年東京大学大学院人文科学研究科(国史学専攻)博士課程修了。山梨大学講師を経て、1994年東京大学助教授、2009年から現職。1930年代の外交と軍事を専門とし、著書に『模索する1930年代 日米関係と陸軍中堅層』(1993年 山川出版社)、『徴兵制と近代日本』(1996年 吉川弘文館)、『満州事変から日中戦争へ』(2007年 岩波新書)、『それでも日本人は「戦争」を選んだ』(2009年 朝日出版社)、『昭和天皇と戦争の世紀』(2011年 講談社)がある。



Triangle Talk



キャノングローバル戦略研究所研究主幹
立命館大学客員教授
外交政策研究所代表
宮家 邦彦

Miyake Kunihiko

1978年東京大学法学部卒業、外務省入省。外務大臣秘書官、在米国大使館一等書記官、中近東第二課長、中近東第一課長、日米安全保障条約課長を経て、在国大使館公使、在イラク大使館公使を歴任、中東アフリカ局参事官を最後に2005年退官。第一次安倍内閣で総理郵連調整官。著書・コラム・論文多数。



丸の内講座 監修
関西学院大学教授
NEWS ZERO メンキャスター

村尾 信尚

Murao Nobutaka

ビジネス&アカウンティングコース

10/24(土)・11/14(土)

【土曜日集中講座】
 時間…13:00～17:00
 受講料…18,000円(同窓生割引15,000円)
 定員…30名
 会場…東京丸の内キャンパス

こんな方におすすめ

- 限られた予算で確実に顧客獲得につなげたい経営者・事業主
- 理論だけでなく、自社のケースを具体的にイメージして学びたい方

「収益を好転させるビジネス・モデルの創り方」
～売れる仕組みを構築するイノベーション発想法

開催趣旨

生活者のニーズが多様化している昨今、世の中に出る製品やサービスもそれに伴って多様化しています。まずは自社独自の強みを生かした製品・サービスを開発することが最初に行うべきことです。

しかしせっかく社会やお客様に素晴らしい価値を提供できる製品やサービスを持っていても、それだけでは十分ではありません。自社製品の価値がわかる顧客層を絞り込むことが重要になります。

自社の「何を」「誰に」買ってもらうかを徹底的に明確にしたうえで「どうやって」買ってもらうかを立案します。この3つの戦

略のセットができてはじめて「自然に売れる仕組み」が構築されます。この儲かる仕組み=ビジネス・モデルができて初めて、安定的な売上と継続的な利益を生み出すことはできません。

今回はビジネス・モデルをしっかりと定義したうえで、大企業の成功事例を紹介します。そしてセミナーの参加企業が自社にいかに取り入れていくかを、弊社独自のワークシートを活用するワークショップ形式で徹底的にご自身に落とし込んでいただきます。

ぜひこの機会に本セミナーに参加し、新しいビジネス・モデルを構築してください。

プログラム

【1日目】

- 「売れる仕組みを創るには」～マーケティングの基礎知識
 - 「何を」=自社プロダクトの独自性を明確にする
 - 「誰に」=自社プロダクトに共感し買ってくれるお客層を明確にする
 - 「どうやって」=お客様に響く表現と、見てくれる媒体を明確にする
 - 「ブランド」=発信したことにお客様が共鳴してもらえる仕組みづくりをする
 - 自社独自の顧客価値(=USP)を見つけるワーク
 - まだ見ぬ顧客層を発見するターゲット設定のワーク
 - 顧客視点でニーズを表現するワーク

2. ビジネス・モデル

- ビジネス・モデルの定義～あいまいな思考からの脱却
- 日本と海外の大企業の事例～レーザーブレード、フリーミアム、ブルーオーシャンなど
- 競争相手より優位に立てる理由と注意点
- 自社にフレームワークを取り入れる時に考えるべきポイント

【2日目】

3. イノベーション発想法

- イノベーション的な発想を阻害する2つの理由:固定観念と成功体験
- 自社に適合する発想を生み出すコツ
- 暗黙知を形式知と集合知に転換し、結果を出せるチームにする

4. 成功企業の事例に学ぶ

- 自転車小売業の季節性を活かした共同購入の仕組み
- 引越・運送業の優良顧客獲得のための仕組み
- 酒造会社の顧客視点のDM
- 建築会社の新規顧客獲得のためのプラットフォーム戦略

5. ワークショップ

- 新結合を生みだすためのワークショップ
- ビジネス・モデルの構築ワークショップ

テキスト:『なぜか売れるの公式』日本経済新聞出版社 ISBN-10:4532319544

講師プロフィール



関西学院大学経営戦略研究科 准教授
マーケティング アイズ株式会社 代表取締役
児玉 洋典

静岡大学文学部経済学専攻。フィリップモリスなどを経て、インディアナ大学経営大学院にてMBA(経営学修士)を取得。アマゾンジャパン、マスターカードなどで、マーケティング・マネージャーを歴任。2010年に起業し、マーケティング アイズを設立。翌年法人化。収益を好転させる中堅企業向けコンサルティングと、従業員をお客様目線に変える社員研修、経営講座を提供。

おもな著書(理央 周として)
『なぜか売れる営業の超思考』『なぜか売れるの公式』『サボる時間術』(日本経済新聞出版社)、『外資系とMBAで学んだ先を読む会話術』(PHP研究所)、『テレビショッピングはなぜ、値段を最後に言うのか』(ダイヤモンド社)等

テレビ東京、ZIP FM(準レギュラー)、朝日新聞、日経MJ、中日新聞、プレジデント、日経ビジネスアソシエなど、テレビ、新聞、雑誌、ラジオの出演・掲載実績も多数。講演実績として日本経済新聞社、宣伝会議、日刊工業新聞社、ダイヤモンド社、各地商工会議所・市役所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、各地倫理法人会など。

マネジメントコース

企業を取り巻く環境は大きく変化を続けています。国外では、米国においては個人消費に支えられ堅調に推移していますが、欧州・中国では、景気後退懸念が広がっています。国内では、安倍政権の経済政策の施策が順次実行され、株価、経済成長率、企業業績、雇用等、多くの経済指標は、著しい改善を見せているものの少子高齢化、財政赤字等多くの課題を抱え、長期的な視点では先行きは不透明な状況です。このような時代だからこそ、最も重要な経営資源である人材について、「人材力」を高めていくことが求められています。マネジメントコースでは、次代を担うビジネスパーソンに向けて幅広い知識を身につけるメニューを厳選してお届けします。

こんな方におすすめ： 将来のために他部門の仕事を知りたいという方や、今担っている仕事よりもう一段高い視点で経営を見ようとするビジネスパーソンにおすすめです。

【講師紹介】

伊賀 真理 Iga Mari

業務経歴・資格

1990年 慶應義塾大学 経済学部 卒業
1996年 関西学院大学 経営学修士 修了
2009年 関西学院大学 経済学博士課程 満期退学
1990年 大阪ガス 広告宣伝部、新規事業開発部
2002年 グループ会社 株式会社パレット 代表取締役就任
2005年 株式会社マーチ 設立
2009年 大阪府 広報参事(特定任期付職員)
2012年 現職復帰

主な業務経歴

大阪ガスでは広告宣伝業務に携わった後、新規事業のウエディングビジネス(万博迎賓館リニューアル)に参画。その後、パレット社長に就任。グループ会社最年少社長として、経営再建に取り組む。退職後、人と組織の成長をサポートするコンサルティング会社マーチを設立。3年間、大阪府の広報参事として改革に取り組む。現在は、現職に復帰し、行政から大企業、中小企業まで幅広くコンサルティングを請け負う。姫路市観光プロジェクトにも参画。



川島 隆志 Kawashima Takashi

業務経歴・資格

1996年 関西学院大学 商学研究科 博士課程前期修了(株日本マーケティング研究所代表取締役社長、㈱JMRサイエンス代表取締役を歴任。2012年より現職。関西学院大学大学院、大阪市立大学大学院等での非常勤講師の経験も豊富。

主な業務経歴

サービスマーケティング、ブランディング、デザイン戦略、店頭マーケティング、BtoBマーケティング、新規事業開発などを幅広く経験。主要論文・著書:『生産財企業に学ぶ関係性マーケティング』(1996年)、『新商品開発プロセスの革新』(1999年)、『パワーブランド構築とCRM戦略』(2005年)、『新しい消費者を理解する法則』(2008年)、『破壊的マーケティングイノベーション』(2009年)、『創マーケティング』(2011)、『顧客価値創造型営業への進化』(2010)共著 JTB能力開発



谷村 真理 Tanimura Mari

業務経歴・資格

1994年 京都大学 法学部 卒業。大手生命保険会社勤務を経て、現在は経営コンサルタントとして活躍している。2008年 関西学院大学大学院経営戦略研究科ファイナンスコース修了(MBA)。同大学客員研究員兼非常勤講師。大阪府よろず支援拠点サブコーディネーター、中小企業診断士。

主な業務経歴

大手生命保険会社にて、顧客対応、企画調査、総務(秘書)、経理等の業務を幅広く経験後、経営コンサルタントとして独立開業。金融機関におけるゼネラリストとしての経験を活かし、ベンチャー企業・中小企業を対象とした経営コンサルティングに従事している。専門は経営戦略策定、経営計画作成、顧客満足経営・従業員満足経営の実践支援など。また大学等で実務経験に基づく講義を積極的に行うなど、若手人材の育成にも尽力している。



登坂 一博 Noborisaka Kazuhiro

業務経歴・資格

1982年 富士ゼロックス入社
1999年 関西学院大学大学院商学研究科マネジメントコース修了(MBA)
2000年 経営コンサルティング会社入社
2002年 日本ヒューレットパカード入社
2009年 起業

主な業務経歴

富士ゼロックスでテリトリー営業から大手企業担当のアカウントマネジャーを経験。その後、経営コンサルタントに転じ、営業改革のコンサルティング案件を多数担当。その後、日本ヒューレットパカードにビジネスコンサルタントとして参画し、IT武装化による営業モデル改革、グローバルプログラムの日本への導入等に従事。現在は、BIC代表として営業力強化のための営業戦略の立案から実行・定着支援等の実践コンサルティング及び企業の売上げの1~3%を占めているプリンティングコスト削減コンサルティングを専門とする。一貫して営業&IT関連の職務に従事し実務と理論の融合を実践し続けている。



船越 伴子 Funakoshi Tomoko

業務経歴・資格

2003年 関西学院大学商学研究科 博士課程前期修了(MBA)。商社にて人事業務を経験後、教育研修団体を経て株式会社ヒューマンラボを共同設立。関西学院大学経営戦略研究科主催のハッピーキャリアプログラム「女性の仕事復帰・女性リーダー育成コース」の企画運営と講師担当。2級キャリアコンサルティング技能士(国家資格)。日本アクションラーニング協会公認 認定シニアALコーチ。

主な業務経歴

商社では、人事関係事務全般を経験する。その後、教育研修団体にて派遣社員の教育プログラム企画や講座運営に従事する傍ら、研修講師として企業や大学で人材育成のための研修を担当する。現在は人材開発、組織開発のための企業研修やコンサルティングなど、人材に関わるトータルサポートに携わり、関西学院大学「ハッピーキャリアプログラム」では、女性の仕事復帰・起業の支援や女性リーダー育成に尽力している。



松田 太一 Matsuda Taichi

業務経歴・資格

'93.大成建設株式会社入社、'06.㈱勝美住宅代表取締役社長、'09.国際ランド&デベロップメント㈱代表取締役社長、'11.国際航業株式会社取締役
関西学院大学大学院商学研究科修了(経営学修士)
東京大学大学院工学系研究科修了(工学修士)
一級土木施工管理技士、建設業経理事務士2級、ファシリティマネジャー

主な業務経歴

大手建設会社にて国内外の建設プロジェクト等の財務、会計、法務等を担当後、MBA取得を経て、建設業、不動産業及び建設技術コンサルティング業を営む複数の企業の取締役や代表取締役社長等として勤務、現在に至る。専門は財務分析に基づく資金や資産管理に関するアドバイザー。



A MBAマネジメント基礎講座

全6回 時間…19:00~21:00
受講料…24,000円(同窓生割引18,000円)
定員…25名
会場…東京丸の内キャンパス
※講師のスケジュールにより、日程が入れ替わる場合がございます

【目標】

MBAのエッセンスを学ぶこと。具体的には各講座は、それぞれの領域のオリエンテーションと位置づけ、理論フレームやその領域の歴史、代表的な理論や説等を解説した上で、それらの理論を実務家講師が経験を交えながら解説することを目標としています。

	テーマ・講師	内容
第1回 11/10(火)	「企業経営の実践」 株式会社マーチ 代表取締役 伊賀 真理	経営とは、「判断と意思決定」の連続です。そのためには、企業の内部と外部を冷静に判断し、目指すべき方向に組織を導く必要があります。本講座では、経営課題の解決のための基本的な考え方やフレームワークを学び、経営戦略への理解を深めることを目的としています。また、理論を学ぶと同時に、受講生同士間で活発な議論をし、課題解決のための「気付き」を促したいと思います。
第2回 11/17(火)	「マーケティング論」 株式会社JMRサイエンス シニアコンサルタント(MBA) 川島 隆志	講座ではまず、企業活動におけるマーケティングの位置づけ、その考え方を押さえます。その上で、BtoCマーケティング、BtoBマーケティングの両方について、様々な事例を紹介しながら基礎的な理論・考え方を学びます。
第3回 11/24(火)	「人材マネジメント論」 株式会社ヒューマンラボ 取締役(MBA) 船越 伴子	「人」はもっとも必要な経営資源の1つです。この「人」にスポットをあて、HRM(ヒューマン・リソース・マネジメント)の考え方を学ぶとともに、何が人のやる気を引き出すのか、代表的なモチベーション理論を共有しながら、実務への応用を考えます。また、現在の人材マネジメントに欠かせない「キャリア形成」についての理解を深め、組織と個人のHappy-Happyな関係をつくるためにも、「自律協働型人材」育成の重要性について学びます。
第4回 12/1(火)	「財務・会計論」 ポラリス経営研究所所長(MBA) 谷村 真理	財務・会計論では、経営学を実践に活かす上で欠かせない、決算書の読み方にフォーカスします。決算書(貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書)の仕組みと、それぞれがどのような意味を持ち、相互にどのように関連しているかについて、簡単な事例を交えながら学んでいただきます。簿記を知らない方や会計が苦手な方にも楽しく受講していただけるように工夫しています。
第5回 12/8(火)	「ITマネジメント論」 株式会社ビジネスイノベーションコンサルティング 代表取締役(MBA) 登坂 一博	現代の企業経営においてIT(情報システム)は重要な経営資源のひとつとなっています。本講座ではITの技術的側面より経営戦略の側面にスポットをあてて、ビジネス戦略と整合の取れたIT戦略を策定し、そのIT戦略を実現するためのIT投資評価、IT組織のあるべき姿、EA(エンタプライズ・アーキテクチャ)のフレームワーク、ITガバナンスの確立等、事例も交えて経営に必要な要素を学んでいただきます。
第6回 12/16(水)	「経営学総論」 国際航業株式会社 技術本部 部長(MBA) 松田 太一	皆さんがここで学ぼうと思った動機は恐らく「知識を得るため」ではなく、ご自身が抱える「課題を解決するため」でしょう。そうした認識に立ち最終回では「得た知識を活用する」ためのまとめを行います。これまで学んだ財務・会計、ファイナンス、マーケティング、人材マネジメントといった各領域の要点を事例や活用場面を織り交ぜながら振り返りますので、次の高みへ進むきっかけとしてください。

ご持参いただきたい物 **電卓**

マネジメントコース

B 財務3表の読み方・使い方

松田 太一 MBA、工学修士

全6回 時間…19:00~21:00
 受講料…24,000円(同窓生割引18,000円)
※他の優待との併用は出来ません。
 定員…15名
 会場…東京丸の内キャンパス

こんな方におすすめ

「財務分析を学びたいけど何から手を付けていいかわからない」、「最近耳慣れない財務分析用語が話題に上るようになった」、「財務分析指標を用いて説明を求められるようになった」、「なぜか財務や会計と聞いただけで苦手意識を感じる」、「本を読んだり簿記を勉強してみたが今一つよく理解できない」、…などとお感じの方。

【目標】

本講座は、財務諸表分析の入門編として設計しました。これまで約10年間にわたり開催されてきた本プログラムでは、スタート時点では財務諸表が全く読めなかった方も、終了時には自然と財務分析に基づく説明やディスカッションができるようになっていきます。そのカギは、基礎力をつける指導法と、一方的な講義形式ではなく参加者の主体的な学びを引き出すプログラム設計にあります。受講生は最低限必要な知識を身につけた後、企業再生や倒産といった事象を実際の財務諸表を使って読み解きます。図化技法を用いますので、簿記の知識が全くない方でも十分理解できます。



【講座概要】

第1週～第3週では、貸借対照表(B/S)、損益計算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)を理解するための技法を学び、4週目以降はより具体的な課題や活用場面に焦点を当てたケースメソッドによるトレーニングを行います。ユニークな事例を用いますので、初心者にも、経験豊富な方にも十分に楽しんでもらえる内容です。

Keywords:財務3表、アクティブラーニング、ROE、ROA、IRR、NPV

	テーマ	内容
第1回 1/27(水)	財務3表の見方	財務3表で最初につまづきやすいのが貸借対照表(以下BS)です。そこで第1回では個人の家計相談について新聞に寄せられた記事を題材に、財務3表のうち特にBSに重点を置き見方を理解するとともに、自分ならどのようなアドバイスを行うのかを考えます。
第2回 2/3(水)	企業再生	次に財務3表を用いて対象の状況や構造を理解する訓練を行います。第2回では企業再生を果たした企業を取り上げ、再生の前後のBSを見比べることにより、企業再生とは何かを理解します。
第3回 2/10(水)	倒産	第3回ではいわゆる倒産に至った企業の財務3表について、とくにCFに注目して倒産とは何かを理解するとともに、どのような回避策があるのかを考えます。
第4回 2/17(水)	企業価値向上	第4回では企業価値向上について考えます。株主から財務分析に基づく企業価値向上のための提言を受けた企業をケースとして、企業価値とは何か、どのようにすれば向上するのかを考えます。
第5回 2/24(水)	投資判断	第5回では投資判断を取り上げます。PFI事業を行うSPCを立ち上げ投資した事業を事例に、NPVやIRRといった投資判断指標を理解し、出資者はなぜSPCに投資したのかを考えます。
第6回 3/2(水)	プレゼンテーション	第6回では受講者によるプレゼンテーションを行います。経営改善計画やM&A、あるいは個人による株式や住宅購入など具体的な仮説を立て「実行すべきかどうか」を検討し、その内容を発表します。

ナレッジコース

12/5(土) . 12/19(土)

時間…13:00~16:15(13:00~14:30、14:45~16:15)
 受講料…12,000円(同窓生割引9,000円)
※他の優待との併用は出来ません。
 定員…20名
 会場…東京丸の内キャンパス

「クリスマスと日本」

～日本における受容と展開から見る現代へのメッセージを探る

今日日本におけるキリスト教徒人口は1%を大きく下回っており、欧米化した生活様式にありながらも、いまだキリスト教は日本においては土着化したとは言えない状況です。しかしながら、イエスの復活を記念する「イースター(復活祭)」や従来はケルトにその起源を有しキリスト教化した「ハロウィン」そして「クリスマス」といった祝祭は今日日本のいたるところで様々な形で一大イベントとなっております。

本講座では、キリスト教の祝祭の本来の意味の再確認と、特に「クリスマス」が日本において受容され、日本の文化として「土着化」していった経緯を振り返りながら、今日の社会にとってどのようなメッセージがあるのかを共に探っていききたいと思います。



担当講師

関西学院大学経済学部教授・宗教主事
 関西学院大学宗教主事

舟木 讓 Funaki Jo

1961年京都市生まれ。
 京都府立洛東高校普通科卒業後、美術印刷会社「便利堂」原色印刷課就職。
 同社退職後、関西学院大学神学部入学。同大学院博士課程前期課程修了後、日本基督教団京都御幸町教会、同神戸栄光教会牧師を経て、1998年関西学院大学経済学部助手(宗教主事)就任。同専任講師、助教授を経て2013年4月より同教授。
 2010年4月～2011年3月コペンハーゲン大学北欧言語学科研究員。
 現在、関西学院大学大学宗教主事、同成全寮舎監、日本キェルケゴール研究センター幹事、キリスト教文化学会常任理事。

主著

『関西学院事典』『キリスト教平和学事典』(項目執筆)
 『愛を考える』(共著)
 『暴力を考える』(共著)
 『キェルケゴールとキリスト教神学の展望』(共著)
 『国際人権百科事典』(監訳)

日程	内容
12/5(土) 第1回	「キリスト教の祝祭 ～その起源と意味、そして現代へのメッセージを探る」 キリスト教の三大祝祭である「イースター(復活祭)」「ペンテコステ(聖霊降臨祭)」「クリスマス(降誕祭)」の意味とその成立の歴史を振り返りながら、キリスト教という「宗教」が有する本質と現代的意味を考えていく。
12/19(土) 第2回	「日本におけるクリスマス受容の歴史と現代へのメッセージを探る」 クリスマスが日本で受容されてきた歴史をたどり、日本の経済や文化への影響を振り返る。そして、今日テーマパーク等で繰り広げられるクリスマスイベントを手掛かりに、クリスマスが現代にどのような意味を有するかを探っていく。

映像が語る科学の驚異と警告

～話題作・受賞作を見る～

全6回 時間…19:00～21:00
 受講料…24,000円(同窓生割引18,000円)
 定員…30名
 会場…東京丸の内キャンパス

第1回

10/9(金) 大宇宙のロマンを語る ～ブラックホールからダークエネルギーまで～

映画「Powers of Ten」は大宇宙を描いた不朽の名作である。20世紀デザイン界の巨匠チャールズ&レイ・イームズが監督・脚本を担当し1968年に完成。サイエンス映像としても20世紀宇宙科学の先端知を表現した最高峰であるとの評価が高い。「映像が語る科学の驚異と警告」シリーズの第1回は、サイエンス映像学会と日本科学技術ジャーナリスト会議の二つの事務局長を同時に務める藤田貢崇が、大宇宙のロマンを映像を駆使して語る。卒業論文でブラックホールについて書き北海道大学で理論物理学の博士号を修得した。ネイチャーの日本語翻訳者も務める藤田貢崇が、大宇宙に於ける知的生命体の存在の可能性や理論物理学が明らかにしたダークマターやダークエネルギーなどについても触れてもらう。



担当講師
 サイエンス映像学会事務局長
 日本科学技術ジャーナリスト会議事務局長
 法政大学教授
藤田 貢崇 Fujita Mitsutaka
 1970年 北海道函館生まれ
 1993年 北海道教育大学 教育学部 師範科 中学校教員養成課程 卒業
 1995年 北海道教育大学 教育学部 研究科 教科教育専攻 理科教育専修 修了
 1999年 北海道大学 理学研究科 博士後期課程 物理学専攻 理論物理学専修 修了
 その後、公立高等学校教員、科学コンサルタント等を経て、
 独立行政法人科学技術振興機構(JST)と
 2006年 北海道大学 高等教育推進機構 特任准教授
 2011年 法政大学 経済学部 教授
 2015年 日本科学技術ジャーナリスト会議事務局長
 主な研究業績
 Two-Dimensional Accretion Disks at Subcritical Luminosity
 Publications of the Astronomical Society of Japan (1998)
 Photographic Database of Ashio Copper Mine in 19th Century of Japan
 American Association for the Advancement of Science (2015) 他
 主な著書・訳書
 「カガク英語ドリル」(シー・エム・シー出版 2009)
 「137億光年の宇宙論」(朝日新聞出版 2012)
 「見えない宇宙」(訳書)(日経BP社 2008) 他

第2回

11/13(金) 大自然の驚異を見る ～名作・里山から最後の楽園まで～

世界的に知られる自然番組のプロデューサー、村田真一はテレビの国際賞で最も権威あるコンクールの一つイタリア賞を受賞するなど多数の名作を制作してきた。現在はNHKスペシャル「福山雅治の最後の秘境」の統括エグゼクティブ・プロデューサーを務める。自然や動植物を誰も見たことがない視点で映像として記録するには、虫の目カメラや空撮でブレない特殊なカメラの開発が必須となる。世界各国の大自然を描き続けてきた村田真一は進歩という名のもと我々の惑星で乱開発が繰り返されている現状をどう見ているのか?最後の秘境に足を踏み入れたとき人は何を見、何を感じるのか?福山雅治の心の内やプロデューサーの実感的体験論を語ってもらう。



担当講師
 サイエンス映像学会理事
 NHKエンタープライズ・エグゼクティブプロデューサー
 元NHKエグゼクティブ・プロデューサー
村田 真一 Murata Shinichi
 1957年 新潟県生まれ
 1981年 東京大学農学部林学科卒業(森林動物学)
 1981年 NHK入局後多数の番組制作
 1985年 NHK特集「大雪山・花紀行」
 2001年 シリーズ「アジア 知られざる大自然」
 2005年 NHKスペシャル「映像詩 里山 命めぐる水辺」「世界里山紀行」
 2006年 シリーズ「赤道 生命の輪」
 2011年 「ホットスポット 最後の楽園」シリーズ
 受賞歴など
 2000年 第12回ハイビジョン映像祭グランプリ
 2005年 第57回イタリア賞他国際賞
 2012年 第35回国際野生動物映像祭最優秀賞他(国内賞9 国際賞38)
 著書 「マザー・ツリー」「カムイの森」(小学館)
 共著 「絶滅動物の予言 ～生命の誕生」「35億年目の悲劇」(情報センター出版局)

第3回

12/11(金) 麻薬からの脱出は可能か? ～ドキュメンタリー制作体験記～

村田豊彦は多面的な顔を持つ男である。本来は映像に魅せられたプロのカメラマンであるがディレクター・プロデューサー・照明・音声・編集マンを一人で六役をこなす事もある。これまでNHKや民間放送のドキュメンタリー制作のほか、中東の放送局・アルジャジーラから依頼されニュース番組も制作してきた。Only Oneの経歴を持ちデジタル時代に対応したマルチ放送マンとして東京工科大学の演習講師のほか早稲田大学や科学ジャーナリスト塾の制作技術の特別講師なども歴任してきた。3.11の原発震災では林勝彦監督と組みドキュメント映画「いのち～from Fukushima to Our Future Generations」を制作技術統括として制作した。麻薬は疼痛防止の有効な面もあるが一般の人にはとても危険なものである。村田豊彦の代表作「ドキュメント・麻薬患者を追う」を取り上げ麻薬の依存性の実態を見て語ってもらう。



担当講師
 サイエンス映像学会理事
 武蔵野美術大学映像学科非常勤講師
 (株)映像開発代表取締役
村田 豊彦 Murata Toyohiko
 1951年 鹿児島県奄美大島生まれ
 1988年 横浜芸術専門学校 デジタル学科卒業後フリーカメラマン
 1991年 株式会社ビデオシステム 東京支社代表責任者
 1999年 映像開発 代表取締役(プロデューサー、編集なども兼務)
 2007年 NHK「地球に好奇心～龍船復活」[素敵にガーデニング]
 2007年 フジテレビ「ザ・ノンフィクション～重症薬物患者の再起」
 2008年～ 科学ジャーナリスト塾講師(映像制作技術)
 2010年 放送大学「病院の中のIT革命」[科学的探求の方法]
 2010年 アルジャジーラ「洞窟湖サミット」
 2010年 東京工科大学ビデオ制作演習講師
 2012年 日本科学協会「もし地球が立方体だったら」
 2013年 武蔵野美術大学映像学科ディレクター・演習講師
 その他、講師歴
 ・早稲田大学院ジャーナリズムコース
 ・(社)日本科学未来館サイエンスコミュニケーター養成
 依頼などにより林勝彦と組み映像技術指導講師

現代人は先端科学技術の恩恵を受け豊かな時代を生きています。好奇心に満ちた人類は大宇宙のマクロの世界から遺伝子のミクロの世界まで知の探求を深めています。IPS細胞や LED省エネ技術などは明るい未来社会を予感させますが、一方で地球環境問題や核兵器・核廃棄物問題など科学の負の側面も抱えています。人類が持続可能な発展を遂げ世界を更に豊かにする為には何が課題となり何が必要なのか?2015年度後期の教養・科学塾では、科学の過去・現在を懐かしの名画やNHKスペシャル等の映像を通して語り、科学技術の未来を考える6回シリーズです。講師陣は、全てサイエンス映像学会の理事が担当します。

第4回

1/15(金) 地球温暖化を防止せよ! ～シミュレーション映像は警告する～

軍司達男は地球温暖化問題をNHK特集で初めて取り上げた「地球汚染～大気に異変が起きている」を1989年にプロデューサーとして制作した。化石燃料などによる二酸化炭素が地球温暖化を招き海面上昇をもたらすとする米国の環境省がまとめた科学的予測データに基づき、特殊撮影で初めて本格的に映像化している。この作品は第26回ギャラクシー賞を受賞した。ディレクターとしてNHK特集「原子力 秘められた巨大技術」シリーズやNHKスペシャル「いま原子力を問う」「原子炉解体」等を制作した後、科学環境部の部長、衛星放送局局長、NHKエデュケーショナル社長などを歴任。現在、JSTのサイエンスニュースの編集長を務めている。他ネット放送「メディアの風」を主宰している。幅広く活躍してきた軍司達男の地球温暖化防止対策は何か?原発は必須なのかも含めて語ってもらう。



担当講師
 サイエンス映像学会理事
 JSTサイエンスチャンネル・ニュース編集長
 元NHKエデュケーショナル社長
軍司 達男 Gunji Tatsuo
 1945年 福島県生まれ
 1968年 東京大学工学部都市工学科卒業
 1968年 NHK入局後、主に科学番組を多数制作
 1981年 NHK特集「原子力 秘められた巨大技術」②スリム島島事故
 1984年 NHK特集「地球汚染」
 1989年 NHKスペシャル「いま 原子力を問う」
 1989年 NHKスペシャル「地球は救えるか」
 1999年～ NHK科学番組部長、衛星放送局長を経て
 2003年 放送衛星システム社長
 2006年 NHKエデュケーショナル社長
 2011年 東京工科大学非常勤講師他、番組制作会社企画アドバイザー
 著書・受賞歴など
 著書 「原発事故を見つめた日々(2013:自費出版)」
 共著 NHK特集「原子力 秘められた巨大技術」「いま 原子力を問う」(NHK出版)
 受賞 ギャラクシー賞選奨など

第5回

2/12(金) NHK名作番組の歴史をCGで見る

坂井滋和はコンピューター・グラフィックスのパイオニアであり常に良質のCGを開発してきた。CGの歴史を紐解くとNHKの名作科学番組の歴史が見えてくる。その語り部として余人をもって替えがたい人物なのである。1985年NHK特集「尾翼に何が起きたか～検証・日航機墜落事故」で墜落寸前までのダッチロールをワイヤーフレームで描いた。1986年「調査報告・チェルノブイリ原発事故」ではプロデューサー林勝彦と組み、原発が爆発炎上後、放射性物質が4日後に日本到達する様子を表現した。この作品はイタリア賞と並ぶモンテカルロ国際テレビ祭で最高賞を受賞した。その他、大型企画では「驚異の小宇宙人体」を皮切りに、「生命 40億年はるかな旅」「ナノスペース」「銀河宇宙オデッセイ」等を制作してきた。CG映像制作を通して見たNHKの話題作の数々を坂井滋和に語ってもらう。



担当講師
 サイエンス映像学会理事
 文部科学省優秀映画選定委員(一般映画部門)
 早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授
坂井 滋和 Sakai Shigekazu
 1946年 岡山県生まれ
 1980年 東京工業大学工学部卒業後、(株)東通入社
 1994年 九州芸術工科大学画像設計学科助教授
 2001年 早稲田大学大学院国際情報通信学科教授
 2001年 早稲田大学基幹理工学部表現工学科教授
 この間、NHK特集で JALダッチロール(1985)、チェルノブイリ放射能拡散(1987)、NHKスペシャル「銀河宇宙 オデッセイ」「驚異の小宇宙 人体」(1989)、「ナノスペース」(1992)、「生命」(1994)、阪神・淡路大震災(1995)、「海」(1998)、「宇宙デジタル図鑑」(1998)、「地球大進化」(2004)などのCG制作多数
 受賞・学会発表など
 1992年 「電子スタジオシステム」番組「ナノスペース」への適用ほか論文(CNII検索)他多数
 科学技術映像祭・全国子ども科学映像祭などの審査委員
 情報文化学会特別賞(1995)
 テレビジョン学会 放送番組技術賞(1993)

第6回

3/11(金) 科学技術が目指す方向性は何か? ～SF映画・TV番組に見るサイエンス～

SF映画やTVの科学の話題作・受賞作には科学技術の進歩を予感させる光の面と影の面も描いたものが多い。1902年「月世界旅行」から67年後、人類はアポロ11号で月面に降り立ち宇宙時代の幕開けを知る。しかし、その前年の映画「2001年宇宙の旅」でHAL9000を登場させ、すでに人工知能の反乱を予言している。また、1945年「E=mc²」をR・オッペンハイマー博士はアラモゴードの原爆実験で証明し、広島・長崎に投下された。核の恐怖は映画「博士の異常な愛情」やNHK「核戦争後の地球」等でも描かれた。地球環境問題と核拡散は人類にとって二大リスクであるが、一方でIPS細胞やLEDなど科学の明るい面もある。科学は誰のために、何のためにあるのか。1999年国連ユネスコと国際科学会議の共催で国際会議が開催され世界宣言が公表されている。最終回では科学技術の健全な発展の方向性について探る。



担当講師
 サイエンス映像学会会長
 元NHKエグゼクティブ・プロデューサー
 科学ジャーナリスト
林 勝彦 Hayashi Katsuhiko
 1943年 東京生まれ
 1965年 慶應義塾大学 文学部哲学科卒業(産業社会学)
 1965年 NHK入局後 40年間で数百番組制作。代表作はNHKスペシャル「驚異の小宇宙 人体」「人体2～脳と心」「人体3～遺伝子・DNA」20本シリーズ
 1998年 東京大学客員教授(先端科学技術研究センター)
 2006年 東京工科大学教授他、東京芸大、早大、関学大、武美大などの非常勤講師、科学ジャーナリスト塾塾長などを歴任
 2015年 サイエンス映像学会会長
 受賞歴など
 1986年 第27回国際モンテカルロテレビ祭(本賞)
 1989年 第17回教育番組国際賞「日本賞」(本賞)
 1992年 文化庁芸術祭作品賞 他(国内賞40、国際賞26)
 編・著本 「これが脳低温度療法だ」(NHK出版1997年)、「科学ジャーナリストは警告する」(清流出版2012年)他編・著多数
 共著 NHKスペシャル「人体」シリーズ 全22冊他共著多数

関西学院大学 丸の内講座 受講申込書 FAX送信先 03-5222-7033

11/28(土)

時間…14:00~16:30
 第一部(14:00~15:00) メインスピーカーによる基調講演、論点整理
 第二部(15:15~16:30) コメントとディスカッション
 受講料…3,000円
 定員…50名
 会場…東京丸の内キャンパス

特別企画(関西学院大学グローバル・ポリシー研究センター企画運営)

2012年に誕生した関西学院大学グローバル・ポリシー研究センター(KG-GPRC)では、2013年度より東京での活動を強化しています。あらゆる場面で国際化のスピードを実感することが増えているなか、KG-GPRCでは学際性と実効性の双方の観点から、グローバルなイシューについて知見を深める場を提供すべく、講座を企画いたしました。多くの皆様のご関心・ご参加をたまりたく、ご案内申し上げます。

第6回 グローバルカフェ

シリーズ「国際情勢を読む」～アメリカの今を考える～

新興国の台頭に伴い世界の政治構造・システムは大きく変容しつつあります。政治学者のサミュエル・ハンチントン氏が指摘したように、世界は多極の構造に移行しつつあるのかもしれませんが。その一つの側面は、唯一の超大国である米国が相対的に影響力を弱めつつあることでしょうか。この国は本当に世界をリードする力と意思を失いつつあるのでしょうか、台頭する国々、特に中国に対してどう対応しようとしているのでしょうか……。1年後の大統領選挙をにらみながら、米国の現実と課題、そして日本にとっての意味を論じてみたいと思います。今回は、主催者の代表(小池)が10月末まで2ヶ月間、ジョンズホプキンス大高等国際関係大学院(SAIS)で客員研究員として過ごした経験を踏まえお話しします。

担当講師



メインスピーカー

関西学院大学総合政策学部教授 関西学院大学グローバル・ポリシー研究センター長

小池 洋次 Koike Hirotosugu

1950年生まれ。1974年横浜国立大学経済学部卒業、日本経済新聞社に入り、中央省庁と日本銀行等を担当後、シンガポール支局長、ワシントン支局長、国際部長、日経ヨーロッパ社長、論説副委員長などを経て、2009年から関西学院大学総合政策学部教授。ケンブリッジ大クレアホール終身会員、2000-06年、総合研究開発機構(NIRA)理事。1998-2009年世界経済フォーラム・メディアアリアター、2004-10年日本公共政策学会理事。2009-10年日EU関係有識者委員会座長。著書は「ソーシャル・イノベーション」「グローバル 知の仕掛け人」(以上、関学出版会)「政策形成の日米比較」(中公新書)、「アジア太平洋新論」(日経)。BASIC公共政策学第10巻「政策形成」(編著、ミネルヴァ書房)「リクアンニュー 未来への提言」(監訳、日経)など。hrkoike1022@yahoo.co.jp



コメンテーター&モデレーター

関西学院大学グローバル・ポリシー研究センター客員研究員

間中 健介 Manaka Kensuke

1975年生まれ。内閣官房スタッフとして成長戦略の実行を担当。中央大学大学院戦略経営研究科修了。2003年米系コンサルティング会社勤務。2005年「愛・地球博」国内・海外広報スタッフ。2006年大手広告会社勤務。2012年「東京電力福島原子力発電所事故調査委員会事務局(国会事故調)」嘱託。

フリガナ	生年月日		性別
氏名	大正・昭和・平成 年 月 日		男・女
ご自宅住所	〒 ()		
	TEL ()	FAX ()	
	E-mail @		
勤務先または学校名	勤務先名または学校名		所属部署/学部・学年・大学院
	〒 ()		
	TEL ()	FAX ()	
E-mail @			
連絡先	<input type="checkbox"/> 自宅(TEL・携帯・FAX・E-mail) <input type="checkbox"/> 勤務先(TEL・携帯・FAX・E-mail)		
受講料請求先	<input type="checkbox"/> 個人へ請求 <input type="checkbox"/> 勤務先へ請求		
請求書送付先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 ※申込者以外の方宛に送付する場合は() <small>部署名・宛名をご記入ください。</small>		
*同窓の方	卒業年次	昭和・平成 年	学部 学科卒 旧姓
コース選択	<input type="checkbox"/> エグゼクティブコース <input type="checkbox"/> マネジメントコース <input type="checkbox"/> A. MBAマネジメント基礎講座 <input type="checkbox"/> B. 財務3表の読み方・使い方		
	<input type="checkbox"/> ビジネス&アカウンティングコース <input type="checkbox"/> ナレッジコース		
	<input type="checkbox"/> 特別企画 <input type="checkbox"/> 教養・科学塾 <input type="checkbox"/> グローバルカフェ		
備考・連絡事項			

公開講座
 トライアングル・トーク
 ※参加申込こちらから
 もしくは関西学院大学
 東京丸の内キャンパスHPより受付



■ 個人情報の取り扱いについて

関西学院大学では、本学が提供する講座の申込時に、皆さまの個人情報の提供をお願いする事があります。また、ご提供頂いた個人情報は、講座運営のため、および講座にお申し込み頂いた皆さまに対し、本学の提供する教育機会についてのお知らせをさせて頂くなど、社会に開かれた大学としての責務を果たしていくために限り、利用させて頂きます。

本学は、ご提供頂いた個人情報を取扱う場合は、個人情報に関する法令を遵守し、すべての教職員が、機密性を保護する取り組みを実施することにより、プライバシーを尊重し、本学に対する期待と信用に応えてまいりたいと考えています。